



▲現在の柏尾川の桜

多くの人で賑わう戸塚区の名所「柏尾川桜並木」には長い歴史があります。それは、戸塚の桜をずっと残したいと思うたくさんの人によってつながれてきました。そんな柏尾川沿いに広がる桜の魅力を紹介します。

### 区の花は「桜」

区制60周年を記念し、「戸塚区の花」を決めるため、区民の皆さんに「印象に残っている区内の花木」の募集を行った結果、選ばれたのが桜です。中でも「柏尾川の桜」とする人が多くいました。



### 柏尾川沿いでは8種類の桜が楽しめます

一番多いのは「ソメイヨシノ」ですが、柏尾川に最初に春を告げる桜は「オカメザクラ」です。戸塚駅付近から下流の高島橋間の両岸で見つけることができます。他にもさまざまな桜が見られます。



オシマザクラ



オカメザクラ



カワザクラ



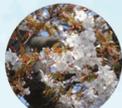
カンザン



ケイオウザクラ



フゲンゾウ



ヤマザクラ



ヨコハマビザクラ

【柏尾川沿いの桜の開花時期】区WEBでもお知らせ ※お花見をするとき、ごみは持ち帰りましょう。



▲昭和初期の柏尾川の桜

### 150年、戸塚を見守る

1856(安政3)年	8月の台風で堤防が切れ、改修した後に植樹
明治後期	耕地整理のための伐採
1908(明治41)年	延長4キロに及ぶ堤防工事が始まる
1910(明治43)年	工事の完了を記念して耕地整理組合員らが苗木2000本を植樹
1935(昭和10)年 -1940(昭和15)年	関東屈指の桜の名所となる (戸塚の桜を詠んだ短歌) 「ながながと 三万人の人影を まじえて霞む 堤の桜」 与謝野鉄幹 「咲く花の 空につづける幕打ちて 正しく走る 柏尾川かな」 「折ふしに いかずちのごと 汽車過ぐる 柏尾堤の 山ざくら花」 与謝野晶子
1944(昭和19)年	第二次世界大戦中、手入れがとどかなかったこと、疎開していった学童の給食の炊飯用の燃料、残留していた学童の下駄をつくるための材料として200本伐採。その後、次々に伐採され、一時は全滅
1953(昭和28)年	戸塚の商店会や飲食店、町内の有志が中心となり、ソメイヨシノ2000本を植樹
1976(昭和51)年 -1980(昭和55)年	伐採と植樹を繰り返す
2004(平成16)年 -2008(平成20)年	高齢化した桜が一部植え替えられる

【参考文献】  
『戸塚区史』戸塚区史刊行委員会／編 戸塚区史刊行委員会(1991.3)  
『ふるさと戸塚 体験でつづる明治・大正・昭和』郷土戸塚区歴史の会／編 戸塚区老人クラブ連合会(1979.11)  
『戸塚の歴史』大橋俊雄／著 文華堂書店(1987)

# とつかのさくらを

# 見に行こう。

## 故郷「柏尾川の桜」を未来につなぐ

### 戸塚桜セーバー

戸塚桜セーバーは、桜を守る活動を行う人たちです。その一人ひとりの活動と思いが、桜を未来につなげています。



戸塚桜セーバー会長 阪間 隆さん

#### 思い

桜保全のために行う作業は、土作りや草刈りなどの地道な積み重ねです。約20年続いているこの活動を、ボランティアとして無理なく、これからも楽しみながら行っていきたいと思っています。今まで築いた桜を通してたくさんのつながりを大切に、若い世代を巻き込みながら、戸塚の「桜」を未来に残していきたいです。

#### 桜を守るために

桜の根の上の土が踏み固められると、水や養分が吸収しにくくなります。そのため、踏まれないように、お花を周りに植えています。他にも、桜の木から落ちた枯れ葉を集めてたい肥にしたり、桜を見分けるための数字が書かれたプレートをつけ、管理しています。そのプレートは地域の子どもたちに書いてもらっています。



▲根の近くにお花を植える



▲落ち葉たい肥作りの様子



▲子どもがプレートを書いている様子

## 柏尾川桜並木を歩こう

柏尾川沿いの桜の魅力をもとめたパンフレット「柏尾川桜物語 時を越えた景色、未来へつなぐ」を発行しました。ぜひ見ながら歩いてみませんか。



▲詳しくはこちら



区役所9階93番窓口で配布中

時を越えた景色、  
未来へつなぐ

桜の寿命は50～60年といわれています。

現存する約350本の桜の多くは昭和の時代に植樹されたものであり、高齢化や病害などにより、樹勢の低下や倒木、枝折れなどが懸念されています。

令和6年度から桜の保全・再生に向けて検討を始め、戸塚区の代表的な景観である「柏尾川桜並木」を将来に引き継いでいきます。



2027年 横浜で国際園芸博覧会が開催されます

開催期間：2027年3月19日(金)～9月26日(日)



区役所企画調整係 (TEL) 866-8327 (FAX) 862-3054